

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072200320		
法人名	株式会社ヴィラージュ		
事業所名	グループホーム上白井の家		
所在地	渋川市上白井2578-11		
自己評価作成日	平成23年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、隣接している小規模多機能施設とイベントを合同開催したり、お互いの施設行事に招待したりと交流を図ることで、生活範囲を広げることを心掛けています。また家庭菜園で野菜や花の栽培、収穫を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者は、回覧板を持参した際に立ち話で一時を過ごしたり、日舞や大正琴の演奏で訪れる人やホームの納涼祭等で近隣の人達と楽しい一日を過ごすなど、地域の人たちと交流を深めている。ホームは、小規模多機能型居宅介護事業所と併設し扉で隔られているが、ホームの入居者と小規模利用者は自由に行き来が可能であり、小規模に通う友人や近隣の人達との交流を通じ精神的に安定した日々を送っている。また、事業所は、職員の言葉遣い、或いは、排泄臭等ホームの環境などについて「満足度調査」を行い、家族の意向を把握して事業所運営に活かしている。調査表には意見欄を設けて、家族からの「カラオケや紙芝居等で脳の活性化を図ってほしい」との要望を受けて、従来から行っている体操や読み聞かせの他、図書館で借りた紙芝居を行ったり、ドリル計算を取り入れる等、家族の意見を活かした新しい取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念の共有と実践の為に毎日の申し送り時に唱えてから業務に入っています。	「笑顔を忘れず、家庭的な環境のもとで、自分らしい生活を、住み慣れた地域の中で送れるよう支援する」を理念に掲げ、自分らしい生活を継続するため、入居者のそれぞれが得意とするそば打ち、食事の下拵え、テーブル拭き、洗濯物たたみ等を自発的に行ってもらうよう支援している。	管理者と職員が、日々の業務の中で理念を意識付けて具体化して行くことについて話し合われるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し道路清掃の参加や地域の方々による慰問の受入れ施設でのイベントに招待させて頂き交流を図っています。	自治会が主催する道路清掃に参加したり、回覧板を入居者と共に持参した際に立ち話で一時を過ごしたりしている。また、近所の人が日舞や大正琴の演奏に訪れたり、納涼祭やクリスマス会に近所の人やボランティアを招待したりして、入居者と交流する楽しい一日が過ごせるよう理念に沿った支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で現在の生活に困っている人がいないかの情報収集も兼ねて定期的に居宅事業所へ営業活動を実施しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行なわれる会議の時に現在の情報報告をし、イベントにも参加して頂きそこでのご意見ご感想を活かしサービスの向上に努めています	併設の小規模多機能型居宅介護事業所「夢」と合同で偶数月に開催している。意見交換では、節電対策に「すだれ」や「ゴーヤのグリーンカーテン」の設置が提案され、実行している。また、納涼祭やクリスマス会の行事に参加してもらい意見や感想を聞き、そこでの意見を次回の行事に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	郵送で送れば済むものでも窓口に直接届けその際に事業所の実情などの報告等させて頂き希薄な関係にならないように努めています。	介護保険の更新書類や郵送で済む書類も持参して、入・退居の状況等を報告するなど市担当者との協力関係を築いていくよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は「介護保険法 指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解し著しく危険を伴う場合を除いて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	外部研修や法人内研修に参加し、受講報告会や勉強会で身体拘束について正しく理解している。落ち込んで個室に閉じこもり家に帰りたいという人には、散歩やドライブに誘い気分転換を図るなど、玄関の施錠を含め身体拘束のない支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し参加してきた職員は施設で参加できなかった職員に研修を行い職員全員が虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し職員全員が権利擁護についてまなび知識を活かせるよう準備しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には利用者や家族に丁寧に説明を行い理解納得して下さるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口として管理者を置き第三者として市長村や国保連の連絡先を重要事項説明書に載せ施設の玄関に掲示しています。	面会時に、「何か希望はありますか」と聞くなど、言い易い雰囲気作りに努めている。また、職員の対応やホームの整備・環境等について「満足度調査」を行い、意見欄を設けている。意見欄には「カラオケや紙芝居等で脳の活性化を図ってほしい」との要望があり、従来から行っている体操や読み聞かせのほか、図書館から紙芝居を借りて行ったり、ドリル計算を取り入れるなど、家族の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇会議を開催し職員一同で運営に対しての意見を出し合い管理者の独断にならないように職員とその場で相談し決定しています。	毎月1回処遇会議を開催し、納涼祭等の月間行事内容の検討、計画停電の対応方針、実習生の受け入れ方針等について協議し、欠席者には署名・押印欄を設け共通認識を図るなど、職員の意見を反映した事業所運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を把握し処遇会議などで個々の意見を聞き話し合いの上業務に反映するように意見を尊重しています。また向上心アップの為研修に参加してもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社が行なっている研修に参加したり段階に応じた育成計画に沿って法人外の研修にも参加するように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着連絡協議会に加盟しており同協議会の集まりにて交流を図りそこで得たネットワークを活用しサービスの質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様から不安な事求めている事傾聴し、ご家族、職員、主治医、医療機関の意見も踏まえた上でのサービスが開始できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から不安ごと困っていること等を傾聴し、少しでも不安等を解消してから利用して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況を把握し何が必要であるかどんなサービス支援を希望しているのか確認した上で他のサービスも含め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段からコミュニケーションを十分に図り時には昔の話を伺いながら、喜怒哀楽を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時はもとより、ご本人の近況を面会時にお伝えしご家族との信頼を構築できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方は来訪して頂くことが多い為ご本人の部屋に案内し心行くまで会話を楽しめる空間を用意しております。	美容院の人が送迎し馴染みの美容院で髪を染めている人、併設の小規模多機能型居宅介護事業所利用者の友人と交流する人、職員と共に回覧板を持参した際に立ち話をする人、髪染めの薬を買いに行く人など、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を考慮しその時その時に応じた対応を心掛け、利用者間の関係が円滑に進むように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを利用してくださっていた方々と築きあげた関係を絶ちきらぬよう、要望があった際は、関わりを保つようにしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが希望や意向を話しやすいような会話に努め、時にはご家族を交えて相談し安心して過ごせるように配慮しています	入居契約時或いは入居後は面会時等に、家族や本人の意向を聞き、調理等の役割を担った自立生活の維持や穏やかで安定した日常生活を望む家族の意向を反映した介護計画を作成している。人前で意見が言えない人には、夜勤時に居室で話し合いをしたり、意思表示の難しい人には、表情等から汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前のアセスメントご家族からの情報をフェイスシートにて職員間での情報共有に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスやモニタリングの際は、個別記録や申し送り張を見直し現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスでは個々の情報を共有し合いながら行い、またサービス担当者会議ではご本人とご家族様と話し合い介護計画作成に努めています	3ヶ月毎の定期見直しは、モニタリングに基づき介護計画の課題について達成状況をサービス担当者会議で検討し、現状に即した見直しを行っている。入退院を繰り返す入居者にはその都度見直しを行い、会議に出席できない職員は考え方等のメモを提出し、総ての職員の意見を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録記載時は、時間帯ごとに細かく記入し、申し送り時には前日の記録の見直しを行っております。またケアカンファレンス時に介護計画見直しに役立てています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、またご家族様からのその時々のご要望について話し合い柔軟なケアに努めるよう心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地元消防団には運営推進委員として関わっていただいています 福祉専門学校や地域の学生や日本舞踊の慰問のご支援も頂いております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご家族に主治医から情報を聞きケアプラン作成時に参考にしています。また利用者の体調には気をつけて適切な医療を受け取るようにしています	契約時に、協力医について説明し、全入居者が職員の送迎のもとに協力医を受診している。皮膚科・歯科等のかかりつけ医の受診は、職員が対応している。受診結果は家族に報告し、申し送り帳に記録すると共に、投薬等については朝礼で職員に伝えて情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接のケアサポートセンター夢の看護職や協力医療機関の看護職と連携を図りながら日常の健康管理に留意し適切な受診が受けられるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の健康管理に努め、入院の際には少なくとも週に1度は面会に行き本人の状態把握とともに病院側との情報交換にも努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況を早期に医師に相談をしその内容をときにはご家族も交えて聞いて頂いています。職員間では朝のミーティング時やケアカンファレンスにおいて、方針を共有しております。	契約時に、医療行為を伴う状態となった場合は、入院や治療のできる他の施設を紹介することを説明している。重度化しても状態が落ち着いて医療行為を伴わない場合は、医師や家族・管理者で話し合い、職員との共通認識のもとに終末期に向けた介護を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元救急隊の協力を仰ぎ2年に1度の救命講座を開いております。又緊急時マニュアルをいつでも見られる所に置き職員が繰り返し目を通せるようにしてあります。		
35	(13)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した避難訓練を実施しています。H21年度より夜間を想定とした避難訓練を実施しています。地域の方々にも緊急時の協力を仰いでます。	消防署の指導を受け年2回の避難訓練を行い、うち1回は夜間を想定した訓練を行っている。なお、7月以降は3ヶ月毎に自主避難訓練を行うこととしている。運営推進会議で地域の人達への協力依頼を行い、了解を頂いている。飲料水や保存食の備蓄も行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の意思を尊重し声掛けに努め個人の名前など記載されているものなどに関しては外部の目に入らぬ所に置くなど注意を払っています。	接遇研修で言葉かけ等の研修を受け、受講後は勉強会で発表し、勉強会参加者はレポートを提出するなど、入居者の人格の尊重とプライバシーの確保・向上に努めている。契約時には家族へ居室に名札を掛けることの同意を得たり、入居者の要望で居室のドアを開けた時に中が覗けないよう入り口に暖簾を掛けるなど、配慮した取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	口数の少ない利用者様もおられる為、若い頃の思い出話等、お聞きして思いや希望を表せるきっかけを作り十分納得できるような支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく入居者様の生活が基本だという事を忘れず個々のリズムに合わせてできる限り希望にそって有意義に過ごせる様つとめています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	店に行く事が出来ない利用者様にはご家族、ご本人の了承を得て職員がその人に合うような理容美容を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるものを取り入れることを心掛け個々の嗜好を考慮して献立を作っています。また個々の残存能力に応じて準備かたづけを手伝って頂き張り合いを持てる様努めています。	食事担当職員は、何が食べたいかを聞き当日の献立を考え、入居者と共に調理している。入居者は、じゃがいもの皮むきや野菜を洗うなどの下拵えを行ったり、そばやうどんを打つ人もいる。プランターで育てたミニトマトやモロヘイヤなどの新鮮野菜が、食卓にあがっている。入居者と職員はテーブルを囲み同じ食事を摂り歓談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え十分な水分量が摂取できるように水分補給して頂いております。また嚥下状態を考慮し水分摂取の苦手な方についてはゼリー、シャーベットのように工夫して摂取して頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの口腔状態を把握し、身体機能に応じた口腔内の掃除を行い清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状態等の情報交換を行いそれぞれの排泄パターンの把握に努めた上で定時のトイレ誘導、おむつ交換を援助しております。	排泄チェック表で個人毎の排泄パターンを把握して、適時に誘導している。ポータブルトイレ使用者が夜間もトイレを使用するようになる等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の栄養バランスを職員間で研究・話し合いを行い便秘対策についても検討しています。またトイレ誘導時腹部マッサージを行い排便を促しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の個々の体調、希望、タイミングに合わせて入浴を楽しんでいただいております。	入浴日は特に決めていないが、体調に合わせて1日おきの入浴を原則とし、毎日入れる体制を取っている。風呂好きな人が気分が落ち着かない時には入浴を勧めたり、近所の人からゆずを頂戴した時はゆず湯を行い、季節を感じ取れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理にも気を配り、その方のこれまでの生活習慣や、睡眠リズムを把握して、安眠につなげられるようなケアを心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の処方箋のコピーをとりファイルにまとめ薬についての理解と、個人の既往病についても知識の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・TV・読書等楽しまれたり、洗濯物たたみや食器洗いをしているとすすんで手伝いに来てくださったり、季節の行事、ドライブ、ボランティアの踊りの慰問の受け入れ等で楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画に外出イベントを盛り込んだり、戸外でお弁当を食べたり、季節の移ろいを体感して頂くためのドライブを実施しています。	職員と髪染めの「染め薬」を買いに行ったり、散歩がてら自治会の回覧板を持参したり、或いは、花を栽培している近くの家を訪れてお茶をご馳走になる等、日常的な外出支援に努めている。花見などの季節毎のドライブのほか、夏場の暑い日は庭の木陰でアイスクリームを食べるなど、戸外に出る支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族と協議させて頂きご自身で管理できる方には現金を所持して頂き、ご希望があれば職員が買い物に付き添わせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によってご家族や親類・友人との電話の取次ぎを実施し、年賀状等のやりとりも支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を第一とし、絵画や観葉植物テーブルには季節の切花を置き明るく、安らぎのある空間作りに努めています。	玄関先の大きな花瓶2つに、アマランサの花が活けられ、居間兼食堂にもアマランサやアジサイなど季節の花が活けられている。壁面には入居者が制作した朝顔の折絵が飾られて、季節感を醸し出している。事業所内は清潔に保たれ、気持ち良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂スペースには利用者様の人数以上の席を用意し気分に合わせて自由に席を移動していただいたり		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内及びびリネンは常に清潔を保ち、クローゼット内も整理整頓に努めています。ご家族ご本人が持参された家具や備品についてはなるべく目の付く所に配置して居心地良く過ごせるように工夫しております。	整理ダンスや藤椅子が持ちこまれ、ベッド脇には滑り止めのカーペットが敷かれたり、散歩の時に摘んだ野の花や近所の人から頂戴したアマランサが活けられている。また、居室内で過ごす時は、自由な姿勢でゆったり過ごして頂くよう各居室に電動ベッドが備えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有の空間には手すりが取り付けられ、歩行、立位等に役立っています。またケアプランを元に認知症の度合い・身体機能を考慮し、それぞれの残存機能が最大限活かされるよう介護にあたっております。		